



局長交代

林業再生は九州から 沖局長が着任挨拶し記者会見

10月1日付けで津元頼光前局長と沖修司局長が交代。

沖局長は10月3日、局大会議室で着任あいさつをしました。

また、10月29日熊本経済記者クラブ14社と林政記者クラブ6社に着任記者会見し所信を表明。併せて本年度3回目となる定例記者発表を行いました。(2面に津元前局長の転任あいさつ)

森林・林業・木材産業のリーダー

九州森林管理局の皆様とは、これまで働く場所こそ東京・九州と離れていましたが、林業再生という同じ思いを持って、林

野庁業務課、経営企画課の時から親しく仕事をさせていただきました。この度、ようやく九州森林管理局の一員として、皆様と一緒に林業再生に向けて仕事ができることとなり、とてもうれしく思っています。

↑
上は着任の記者会見であいさつする沖局長。左は局大会議室で。



特に、九州森林管理局は、全国に先駆け低コスト作業システムを確立し、民有林への普及を図るなど我が

生物多様性に向けた取組

むとともに、人工林成林の一阻害要因となっているシカ害対策にも積極的に取り組むたいと考えています。

国林業のリーダー的存在であると思います。これは、九州の人工林資源の充実とともに、効率的な列状間伐の実施、更には高性能林業機械の導入や合板・集成材分野における技術開発、そして安定的に間伐材を供給するためのシステム販売といったそれぞれのツールが合理的にマッチングし機能したことにもありますが、何よりも職員の高いプロ意識と不断のチャレンジ精神のためものと思います。

九州から林業再生を

今後とも、林業再生は九州からを合い言葉に、我が国の森林・林業・木材産業をリードし、九州の山村地域や森林所有者等が参りましょう。間伐という林業の一工程のみの取組で終わらせるのではなく、林業のサイクルを通じた低コスト化を図ることが重要です。特に、これまで築いてきた作業路網を利用してコンテナ苗を植え付ける等により「育林」の低コスト化に取り組

安全と健康

最後になりましたが、こうした先進的な取組を行うにあたって、まず安全と健康が何より重要です。職員の皆様は健康で安全に仕事ができるような職場環境作りにも十分留意したいと思いますので、よろしくお願ひします。

林業再生のための人材育成に向け 鹿児島大学と協定締結

10月29日、九州森林管理局において、当局と鹿児島大学との間で、「九州の林業再生のために必要な人材育成等に関する協定」締結の調印式を行いました。これは、地球温暖化防止森林吸収源対策や過疎化する山村振興対策として森林整備が喫緊の課題となる中、林業を担う指導的な立場の人材の知識・技術レベルの向上を目的とするものです。

具体的には、講師としての職員派遣のほか、国有林のフィールド提供、国有林の取組の紹介、データの提供などを通じ、林地の状況に応じた路網の計画・開設、作業システムの選択など森林施業の低コスト化を実践でき、かつ労働安全や環境への配慮ができる人材を育成していきたいと考えています。

挨拶 転任

九州での仕事が財産に 前九州森林管理局長 津元 頼光

慌ただしい転勤となりましたが、2年半、職員の皆様方には、公私ともども大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。良い土地で良い方々と知り合い良い組織で良い仕事ができた良い一時を過ごすことができました。皆様方には業務の折々、また色んなところで沢山の話を聞き、そうした一つ一つの出来事が、私の仕事や生活の糧にな



り財産になりました。2年半、様々な案件、厳しい場面もありましたがそれを乗り越えられたのは皆様として組織

人材が安心して生活できるような環境づくりを目指すこととしていきます。

今回の協定締結を契機として、学・官が協力して九州の林業再



結調後学長と握手する沖局長

生のための人材を育成することにより、山村振興はもとより、地球温暖化防止対策にも貢献するという、相乗効果を目指し取り組みを進めていきたいと考えています。

(担当Ⅱ企画調整室)

今年最後のお届け講座

【屋久島森林管理署】栗生小学校5・6年生9人を対象に、今年最後のお届け講座を行いました。当日は校長先生、教頭、担任の先生も参加。児童らはパワーポイントによる説明を熱心に聞いたり、「家ではどんな木が使われていますか」などの質問がされていました。私たちは、少しでも良い状態で次代にこの森林資源を引き継いでいくことが使命です。将来の森林を考える一つのきっかけとなり、今後ともこれを超える組織でいて頂きたいと同時に、発信から評価までという取組みも続けて頂きたいと思えます。

組織は人を育てます。人が育つと組織も強くなります。九州局は、それができると私は確信しています。今やるべきことをやり、なすべきことをなせば必ず評価されます。私は九州を去りますが、国有林の真髄を知

問があるなど、少人数の児童が対象でしたが、熱心な受講態度に熱が入った講座となりました。



講義を熱心に聞く小学生＝屋久島

バランスの良い沖新局長のもとで、九州から始まる日本林業の再生などにさらにご精進されご活躍頂くことを期待しています。私の今回の異動は、九州の沢山の人の想いがそこに運んだのではないかと思っています。私が皆様方と取組み、探してきたもの、これを常に忘れず次の職場でも頑張っていきたいと思えます。何かのご縁で知り合いましたし、上京の折には是非立ち寄り下さい。今後とも宜しくお願いいたします。最後に、重ねて心より御礼申し上げます。お別れのご挨拶といたします。

不法投棄絶滅願いクリーン活動

【宮崎森林管理署】県道28号



ゴミ回収に汗する参加者ら＝宮崎

線(日南・高岡線)沿いと一ツ葉海岸の国有林で、宮崎土木事務所、国有林の関係団体に協力を呼びかけ、総勢約40人でクリーン活動を行いました。撤収したゴミは2トントラック1台、軽トラック2台にもなりました。一向に減らない不法投棄に参加者はモラルの低下に嘆くばかりでした。この活動が少しでも不法投棄の減少につながることを願っています。

フナ分布調査協働で取組

【北薩森林管理署】地域発案



南限のフナ林調査をする参加者＝北薩

システムで取り組んでいる「紫尾山(1067㍎)のフナ林保全・保護対策」事業の一環として、さつま町役場、さつま町議

効果的な作業システム学ぶ

【佐賀森林管理署】三瀬森林

て、さつま町役場、さつま町議会議員、地域ボランティアなど参加のもとフナ分布調査と樹名板の設置を行いました。参加者は、山頂広場で大川署長、さつま町の山口耕地林業課長からフナ林の重要性について説明を受けた後前年播種したフナの発芽や生長状況の観察を行った後、8班に分かれフナの分布調査や歩道沿いに樹名板を設置。参加者は、心地よい汗をかきながら南限のフナ探索を楽しみました。

事務所管内の国有林で、低コストで効果的な作業システムの整備・普及の現地検討会を実施。佐賀東部・西部流域森林・林業活性化センター会員や同流域森林・林業活性化協議会会員、当署職員など40人が参加しました。参加者に、低コスト作業路などについての説明や国有林野事業に係る請負事業者の重大災害の概要などを説明。無災害への取り組みをお願いしました。その後、作業現場に移動し、作業路の作設状況やスイングヤーダによる集材状況、プロセッサ、フォワーダによる低コスト作業など高性能林業機械を活用した作業システムを学ぶ技術の向上を図りました。

近年の山

九州山地の山々とそこに生える植物を調べて50年経過、世の中が変わると共に山林にも大きい変化が起きました。1950年代の森林生産時代は学校林があつて、学校植林コンクール全



国大会までありました。小学校からの農業関係高校まで全地域あげて植林をしました。当時の木々は現在、良好な樹木となっ

たことは言うまでもありません。伐採跡は植林され日本の林業は確立されていたと思います。この森林植物が大きい変化をしています。原因はシカの大発生です。第一に臨床の草本層に生えるシダ類、高木層のカシ類ツバキ類、ナラ類等あらゆる苗木を食いつくしています。シカは餌がなくなると落ち葉を食べます、林床は裸地になり、雨が降ると侵食がひどく土砂の排出が大量になり溪谷の深い淵等が浅くな



環境省野生動物
物種保存推進員

乙益正隆さん

りました。第二にシカの角擦りによる被害です。次にスギ、ヒノキの食害等今までに無かった事が次々に起こり山林には大変な時代が来しました。私は1986年から日本の絶滅危惧植物の調査をはじめ20年になります。九州各地の山には貴重な植物は

多いけれどその殆どをシカに食いつくされなくなりました。人吉、球磨地方のシカ駆除数は平成18年度8000頭、19年度7000頭、20年度8631頭です。如何に多いかわかります。シカが嫌いな植物も餌がなくなるとバイケイソウもイワヒメワラビ、タケニグサも食べるようです。これらの異常現象は「可愛そう」という過保護の言葉が生態系を変えてしまったといわれます。



高性能機械での作業を学ぶ一行＝佐賀

自署の名山



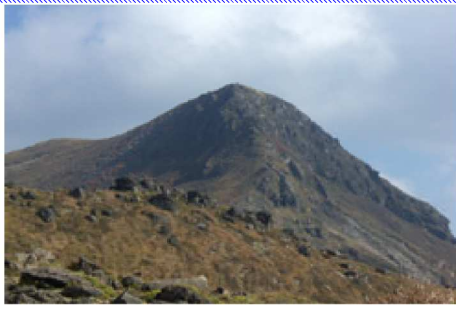
大分森林管理署

久住森林事務所

森林官 那須芳広

大分森林管理署管内には、久住山、祖母山、傾山、由布岳等々九州を代表する名山が多く、どの山にも県内はもとより各地から数多くの登山者が訪れています。

その中でも、私の管轄する九重連山は九州の尾根とも呼ばれる九州本土最高峰の中岳（1791m）、久住山（1786m）、大船山（1786m）、稲星山（1774m）、星生山（1762m）、三俣山（1745m）等々1700mを超える峰が連なる山岳群です。また、当地域



久住山



山開き

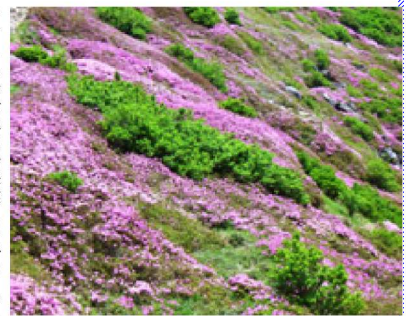
は昭和9年に「阿蘇くじゅう国立公園」に指定され、毎年6月の第一日曜日に久住山と大船山とを交互に開催される山開きでは、ミヤマキリシマの開花の時期とも重なり、登山者で身動き出来なくなるほどの賑わいを見せています。よく、九重山と久住山は違う山なのかと問われることがありますが、山群の主峰である単独の山を久住山、山群全体を九重山又は九重連山として分けて呼ばれています（呼び方はどちらも「くじゅう」です）。

月下旬から6月中旬にかけて山が一面にピンクの絨毯を敷いたように広がる花畑の様は圧巻です。また、その他にも国の天然記念物に指定されているコケモロやドウダンツツシ、ツクシシヤクナゲ、マンサク、イワカガミ、マイヅルソウ等々の花々が四季折々に見られ、登山者の目を和ませていきます。

また、九重連山の主要な場所に避難小屋が設置されています。その中で当署で設置している通称「池の小屋」について、老朽化で天井が破損していたことから、近年立入禁止にしています。したが、登山愛好家や関係各方面からの強い要望を受け、本年補修工事を実施することになりました。11月末には完成の予定となっており、地元マスコミにも大きく取り上げられ、関係者からも感謝されているところです。

九重連山では、森林保護員による巡視や高山植物保護監視員、自然を守る会等により、くじゅうの希少な動植物等を守るための活動が行われています。特に近年の登山ブームで踏み荒らし

九州の屋根「九重連山」



ミヤマキリシマ



避難小屋

による植生の荒廃も見られるようになり、登山道以外には一部立入禁止の措置などを行っています。これからも、希少な動植物や雄大な自然景観を後世に残していくため、関係者等と連携しながら、取り組んでいきたいと思えます。

九重連山への登山や植生等の情報については、九州森林管理局ホームページへ森林管理局の仕事へ森林保護員についての紹介していますので、そちらをご覧ください。

虹の松原クリーン作戦始動

【佐賀森林管理署】特別名勝

「虹の松原」では、関係自治体をはじめ地元住民代表から構成する虹の松原保護対策協議会が中心となって「虹の松原」の再生・保全活動が展開されています。しかし、松原の駐車場周辺や道路脇などには空き缶やペットボトルなどが散乱している状況で、地元ボランティアらが定期的に清掃を行っています。当署でも局重点取組事項である「きれいな海岸づくりの推進」として毎月職員の半数交代で清掃活動に参加する「虹の松原クリーン作戦」を始動。ゴミの松原の汚名返上に繋げることを願う地元ボランティアの方と一緒に心地よい汗をかきました。



清掃活動に汗するボランティア＝佐賀

鶴見岳で紅葉探勝会

【大分西部森林管理署】由布・鶴見岳自然休養林で近鉄・別府ロープウェイと共催で「鶴見岳紅葉探勝会」を開きました。当日は県内外から58人が参加。鶴見岳山頂から馬の背、南平台を経由して火男火売神社までの約



紅葉と森林浴を楽しむ参加者＝大分西部

6キロのコースを散策し、紅葉と森林浴を楽しみました。参加者は、ウリハダカエデ、コミネカエデなどの紅葉に歓声を上げるなど、楽し一日を過ごしました。

人吉・球磨自然観察会開く

【熊本南部森林管理署】三ツ尾国有林周辺で、「第4回人吉・球磨自然観察会」を開き、里山の植物を観察しました。当日は、環境省希少野生動植物種保存推進員の乙益正隆氏を講師に、総勢54人が参加。参加者は、乙益推進員の説明にメモを取るなど熱心に耳を傾けていました。また、貴重なシタ類も観察でき、写真を撮ったりと、植物観察を楽しみました。同会は楽しく学べる会として大好評で、今後ともさらに会の充実を図ること



熱心にメモを取る参加の皆さん＝熊本南部

屋久杉土埋木に興味

【屋久島森林管理署】屋久島環境文化研修センター主催の自然体験セミナー「森物語」が開かれ、当署も体験林業の講師として参加。セミナーに参加した

としています。



丸太切りに悪戦苦闘の参加者＝屋久島

神奈川・鹿児島両県6人に貯木場の見学や「丸太切り」に挑戦していただきました。貯木場では、初めて見る屋久杉土埋木に興味を抱かれ、土埋木の説明を熱心に聞いていました。また「丸太切り」では、使いなれないノコギリに悪戦苦闘しながらも、丸太を切り落としていま

児童65人にお届け講座

【宮崎北部森林管理署】日向市立財光寺南小学校5年生の児童65人を対象に、森林環境教育「お届け講座」を森林インストラクターの大野裕さんと岡崎和代さんを講師に迎え実施。児童らは森林の役割、間伐などについて学んだ後、名前当てクイズに挑戦しました。その後3クラスに分かれ、校庭で樹木名やその特徴、匂い、丸太切りを体験しました。児童らは日ごろ体験できない授業に興味深く取り組みなど、楽しい講座となったようです。



最近、県内では島原半島のジオパーク認定、諫早干拓の排水問題、長崎・広島両市での五輪開催、大河ドラマの龍馬伝放送等話題に事欠きません。この他、他県等と同様にダム建設や新幹線問題等もマスコミを賑わしていますが、

ジオパーク

私見はやめておきましょう。ただ、当署との関連ではジオパークでしょうか。地元では知名度アップによる観光面での活性化や地質・地形等の保護、教育面等で大きな期待が寄せられております。半島森林の三分の一以上を占める国有林も、安全・安心のため眉山や

雲仙普賢岳の治山事業等も引き続き重要となっております。今後、ジオパークに係る保護や教育の面で、当署も何らかの役割が避けられませんが、半島での「遊々の森」の設定もその一翼を担うものと考えており、実現に向けて取組むこととしていきます。4年に一度

はジオパークの再審査が行われ、取り消される可能性もあることから、適切な利活用と情報発信のためには住民と一体感を持つて、メディアを使ったPRや効果的な普及活動をするべきとも指摘されており、行政や団体等の取組みが重要度を増している昨今です。

(長崎森林管理署長

西中 美芳)



興味深く匂いを嗅ぐ児童＝宮崎北部

皇太子さまが枝打ち

長崎雲仙市で全国植樹祭

「未来へと 夢をつないで 育てる緑」をテーマに第33回全国育樹祭が10月4日、皇太子さまをお迎えし、長崎県雲仙市国見町の「県立百花台公園」で開催されました。

百花台公園で平成2年に「第41回全国植樹祭」で天皇、皇后両陛下がお手植えされたヒノキの木のお手入れ（枝打ち）をされました。

式典では、大会会長の江田五月参議院議長と金子原二郎長崎県知事があいさつ。引き続き皇太子さまが「森林は美しく豊

かな国づくりの基礎、森林を守り育てる活動の輪が、この長崎から世界へ、そして未来へ広がることを願います」とおことばを述べられました。

その後、緑の少年団の活動発表や緑化等功労者への表彰が行われ、佐々木毅国土緑化推進機構理事長の大会宣言で式典を終えました。

全国育樹祭は春に行われる全国植樹祭と並ぶ緑化推進行事で、来年の全国育樹祭は群馬県で開催されます。



ヒノキのお手入れをされる皇太子さま

快晴のなか行われた育樹祭には、沖修司九州森林管理局長や西中美芳長崎森林管理署長をはじめ全国から林業関係者ら約7500人が参加。緑を育て、次代に受け継いでいく大切さを誓いました。

式典に先立ち皇太子さまは、



式典会場に入る緑の少年団・県立百花台公園



チャンチキモドキの種子は、果肉と皮が無くなった白みがかつた長さ1・5センチのやや楕円形で上にも下にも5つの小さな孔があり不思議な種子だと驚きました（この孔は発芽孔という）。熊本県が北限で非常に珍しい樹木と聞いています。

平成7年に福岡県で50本前後の群落が発見されましたが、自生か植栽されたかは不明と報じられていました。環境省レッドデータブックでは絶滅危惧種となっています。

⑦ チャンチンモドキ（ウルシ科）

菊池高校（熊本県菊池市）のチャンチンモドキは熊本県の天然記念物となっています。幹周り3・7センチ、樹高25センチあり、日本一大きいものかもしれません。葉は奇数羽状複葉で雌雄異株、種子は秋に黄白色に熟して落下します。食用になると解説されていますが口にすることはありません。

監物台樹木園中央東には胸高直径約40センチ、高さ約15センチありますが残念ながら高さ4センチで主幹を形成していた3本が折れて、脇芽が勢よく伸びている状況



です。種子を見たことがないのでたぶん雄木だと思われれます。



子どもたちも巣立ちうれしいうような寂しいような？この季節そんな気持ちがこみ上げてくる。孫の顔も早くみたいと、そんなことを考える今日だ▼めぐるしい時代の変化に生活スタイルも著しく変わったのだろうか▼新聞にこんな記事が掲載されていたのを思い出した。タイトルは、「男性も座っておしっこをする時代？」である。TOOが20代〜60代の男性500人を対象にインターネット上で行ったアンケート調査結果だ▼これによると男性の3割強が様式トイレに座って小便をするとのことだ。尿が飛び散らないから、掃除が楽だからが主な理由。中には家族に言われてとの回答もあった▼そういえば・・・屋外で用をたす人は見かけなくなつた。イベントでは、洋式のトイレでない用をたせない児童がいたことを思い出す。今の時代「このこへんですまして」とは言えないようだ▼1990年比で2020年までに温室効果ガス25%削減を目指す時代。次代を担う子供たちには、自然のなかでたくましく成長してもらいたい（え）